

**関西
ステンレス**

一部に天井感もなお強気寄り

(大阪) 関西地区のステンレススクラップ相場は堅調感を残したまま推移している。3~4月に概ね[※]計15円上昇した市況は、今月も先週までに計10~15円の値上げが広がり続伸する展開となった。足元の指標ニッケルの軟化で市中では天井感も意識される中だが、他地区の高値や現物不足を理由に強気寄りの見方はなお根強い様子。手掛かりを探る商状が続いている。

今月は域内の高炉向け直納筋らが現物確保への取り組みに加え、関東や中部地区ミルの積極調達やスポット高値を踏まえ、連休前後に独自で買値を上乗せする動きが拡大。定修入りで価格対応に慎重な姿勢を保持していた高炉大手も個別で容認する構えを見せ、実勢買値は215~220円見当に上昇したとみられる。

ただ、関東や中部ミルのスポット高値は一部に230円台の水準も伝わり、買値水準はなお開きが目立つ状況。域内の複数の問屋筋は「中部地区向けの業者が高値を置き、関西圏の玉に対しても積極的に集荷している」と指摘。「自社の入荷に与える影響は大きい」と

口を揃える。また、中国向け輸出筋らは小口業者に対しても高値仕切りが目立つ状況。市況全般に「ナイモノ高」の商状が継続していることが窺える。

一方、輸出大手は12日からの追加値上げで実勢買値は概ね210~215円見当に上昇。一部には国内ミルの高値を意識した取り組みも伝わるが、足元は限られる様子。ある納入筋は「国内と比べ上げ不足は否めず、裏値対応の余地は残している」と話す。

LMEニッケル・ステンレススクラップ相場推移

| | LMEニッケル相場 (月平均) \$/MT | LME NI在庫 (期末/t) | ASIA・SABOT \$/MT | フェロクロム相場 高炭素品・4/LB | 為替相場 (TTS) |
|------------|--------------------------|--------------------|---------------------|-----------------------|---------------|
| 2024年平均・合計 | 16,818 | 160,536 | 1,338 | 156.50 | 152.58 |
| 2025年平均・合計 | 15,159 | 255,162 | 1,249 | 151.75 | 150.71 |
| 2025年9月 | 15,102 | 231,312 | 1,260 | 153.00 | 148.99 |
| 10月 | 15,080 | 252,102 | 1,260 | 163.00 | 152.30 |
| 11月 | 14,696 | 254,760 | 1,240 | 163.00 | 156.20 |
| 12月 | 14,879 | 255,162 | 1,230 | 163.00 | 156.95 |
| 2026年1月 | 17,844 | 286,284 | 1,300 | 163.00 | 157.78 |
| 2月 | 17,133 | 287,976 | 1,290 | 163.00 | 156.13 |
| 3月 | 17,093 | 281,526 | 1,300 | 163.00 | 159.68 |
| 4月 | 18,006 | 277,398 | 1,340 | 169.00 | 160.33 |
| 5月 | 18,898 | 275,562 | 1,370 | 169.00 | 158.59 |

※5月は18日までの平均値

ステン鋼生産 2カ月ぶり小幅増 2月17万1千ト

ステンレス鋼の生産実績が小幅ながら2カ月ぶりに前年実績を上回った。経済産業統計協会によると、2月の生産量は前月比6.6%増、前年同月比0.2%増の17万1672ト^トだった。安価な輸入材の流入増や建築案件の着工遅れなどでニッケル系の生産が2カ月ぶりに減少

したが、自動車生産の持ち直しでクロム系の生産が2カ月ぶりに増加。耐熱鋼関連の生産も4カ月連続で前年実績から増加し、全体を押し上げた。

1~2月の累計生産量は33万2705ト^トで、前年同期比0.7%減となった。

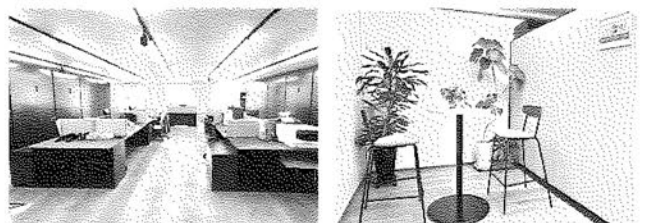
富士マテリアル、本社事務所をリニューアル

(大阪) レアメタルやレアアースのリサイクル事業を展開している富士マテリアル(本社=大阪府大阪市、西尾一社長)は4月11日、2月から進めていた本社事務所のリニューアル工事が完了した。同社は2023年にも主力拠点である大正工場・倉庫(大阪市大正区)の大幅リフォームを実施しており、今回のリニューアルとあわせて、今後も職場環境の改善に注力していく考えだ。新しくした本社事務所は、機能性と清潔感を重視し、落ち着いた音楽が流れる現代的で整然とした空間に生まれ変わった。

リニューアルにあたっては社員の意見も反映し、動線や業務効率に配慮した設計となっている。ワークスペースは広々としたレイアウトで、手狭さを解消し開放感を演出。応接室はガラス張りとすることで、プライバシーを確保しつつも広さと明るさを感じられる空間に仕上げた。また、大容量の収納ラックを新設し、収納スペースを大幅に拡充。書類や備品の整理がしやすくなり、オフィス全体の動線もスムーズになった。さらに、ハイテーブルとハイチェアを備えた小規模

ミーティングスペースを設置。短時間の打ち合わせや気軽な相談に利用でき、応接室を使わずにコミュニケーションを図れる便利な空間として活用されている。

各デスクにはパーテーションを設置し、周囲を気にせず集中できるワークスペースを確保。リラックスしながらも生産性の高い環境を実現している。分析室も以前より広くなり、作業効率が向上。ゆとりあるスペースで、より精度の高い分析業務に取り組めるようになった。キッチンには、健康経営の一環として導入した企業向けの設置型社食サービスを設置。オフィスにいながら新鮮な野菜やフルーツ、サラダ、総菜などを手軽に利用でき、社員の健康維持・増進を食事面からも支えている。



リニューアルした本社事務所